

On some Elaterid-species from Japan,  
with the Description of two new Taxa (Coleoptera)

"Notes on Elateridae from Japan and its adjacent Area 31"

By  
Takashi KISHII

---

Reprinted from  
BULLETIN OF THE HEIAN HIGH SCHOOL  
KYOTO, JAPAN  
No. 27, July 1983

# On some Elaterid-species from Japan, with the Description of two new Taxa (Coleoptera)

“Notes on Elateridae from Japan and its adjacent Area 3”

By

Takashi KISHII

Biological Laboratory, Heian High School  
(Shichijō-ōmiya, Shimokyo-ku, Kyoto 600, Japan)

**Synopsis** A new species and a new subspecies belonging to the genus *Ampedus* are described from Honshū: *Ampedus* (*Ampedus*) *kurama* sp. nov. from Kurama in Kyoto Prefecture and *A. (A.) yaku ohdai* subsp. nov. from Mt. Ohdai-ga-hara in Nara Prefecture. *A. (A.) vestitus yakuensis* Kishii, 1979 is replaced by a new name: *A. (A.) vestitus yakuinsulanus* nom. nov. for the junior primary homonym of *A. (A.) yakuensis* Kishii, 1976. Two species are newly revised as the subspecies: *Harminius singularis nihonicus* Kishii, 1979 and *Orithales yezoensis yatsuensis* Kishii, 1966. Some species are reported on the color variation and new distribution. A key to the Japanese species of the genus *Ectinus* is presented.

前回の報告(1981)に続き多くの協力者から筆者のもとに寄せられた資料中、若干の種について分類上又は分布上興味あるものについて報告する。

この研究にあたり資料面及び文献蒐集について極めて有益な援助を頂いた下記の諸氏に深く謝意を表したい。

平野修一氏(盛岡市)、穂積俊文氏(岐阜市)、水野弘造氏(宇治市)、西田信夫氏(京都府立大学)、緒方健氏(九州大学、大学院)、島本龍一氏(高知農業試験場)、鈴木互氏(東京農業大学)、田中忠次氏(富山県)。

## *Hypolithus motschulskyi kongoensis* Kishii, 1969

ミヤマヒサゴコメツキ金剛山亜種  
(Figs. 16, 17, 26 & 27)

*Hypolithus* (*Hypnoidus*) *motschulskyi kongoensis* Kishii, 1969, *Bull. Heian High Sch.* 14 : 1~2, Pl. 1, fig. 6 (Mt. Kongō-zan in Osaka).

本亜種はただ一頭の雄個体により記載されて以来久しく再度の報告がなかったのであるが、1982年12月に当時京都府立大の緒方健君(現在九州大学院)を通じ同大学の西田信夫君が同山に於て複数個体を採集したものを検する機会をもったので、関連する他亜種との相異等について以下に記す。

本種 *motschulskyi* は周知の如く現在までに本州では秋田・岩手両県を北限として、南アルプスから台高山系までの高山地帯に局所的な隔離分布地をもち、計18亜種に分類され、さらに四国剣山からの1亜種を加え、総計19亜種に分けられるという、コメツキムシ類の中でも特異なグループである。その高地での局所的な生息域と、後翅の著るしい退化による地理的及び生殖的隔離の影響が強くその形態面にあらわれ、産地による体色、体形等に变化が多く認められるため、上記のように多くの亜種に分類されているのであるが、産地不祥の資料では往々にしてその亜種名決定は容易でなく、よほど多くの資料を検した経験をもたぬと困難である。雄生殖器構造も互によく似ていて、その点でも有力な分類の手掛りとなり難いのであるが、ただかつて筆者(1979a)が指摘したように雌貯精囊内にあるブラシ状の刺状キチン板の形状が亜種間で異なり、同一亜種個体群内での変異の少ない点で、この形状比較が一つの有力な極め手となる。

金剛山亜種は原記載に用いられた標本の色彩が極めて明るい赤褐色で、黒色部は前背板、上翅及び体下面中央部がかなり暗褐色化するが、真の黒色部はなく、他の亜種とは際立って異なる感じをもたせ、又体もよく扁平され、前背板点刻は微小ではあるが本州産他亜種よりは大型で密であり、後角も互にほとんど平行状で先端がやや外方に向き、基部で僅かに内方に凹む程度である等の点で他の亜種からは著るしく異なり、一見別種の感じもなくはないものであったが、その色彩については、或いは個体変異か、羽化直後のものの可能性もあるものとみなしていた。ただし体各部のキチン化程度はしっかりしていた。

今回得られた資料は何れも色彩、体形共に極めてよくこの原記載標本に似ており、これらの特徴がこの亜種固有のものであることが判明した。又雌個体も得られたのでその貯精囊内キチン板(Fig. 27)を検したが、この二種類あるキチン板の中で大型のものは最近接地に分布する亜種 *taichii* (Fig. 25) のそれより太く、一般に他のどの亜種のそれより大型であり、似ているものとしては寧ろ北方系の亜種である *akitensis* や *babai* がある。又小型キチン板はこれ迄に雌が得られているすべてのものと異なり、最もよく湾曲して馬蹄形状である点で他との区別は容易である。雄生殖器側片先端部(Fig. 26)は *taichii* (Fig. 24) のように先端側方が内方に凹まない。いずれにしろ地域的には最も近い所に分布する *taichii* とは多くの点でかなり分化した別な個体群であることは明らかである。猶、四国産亜種 *tsurugi* との関連性については次の項で触れることにする。

又直接検し得た標本のデータは次の通りである。

1雄1雌、奈良県金剛山頂附近、1982年12月5日、西田信夫採集。なお、原記載時のデータには大阪府と記したが、これは金剛山頂は奈良県に属するが、標本採地が大阪側であったためである。

### *Hypolithus motschulskyi tsurugi* Ohira, 1963

ミヤマヒサゴコメツキ四国亜種

(Figs. 18, 28 & 29)

*Hypolithus motschulskyi tsurugi* Ohira, 1963, *Trans. Shikoku ent. Soc.* 8 (1) : 17, Pl. 1, figs. L-b, F, G (Mt. Tsurugi in Shikoku) (June).

*Hypolithus motschulskyi tsurugi* : Nakane, 1963, *Sci. Rep. Kyoto Pref. Univ.* 3 (5) A ser. : 222, fig. 4 (Mt. Tsurugi) (December).

*Hypolithus (Hypnoidus) motschulskyi tsurugi* : Ohira, 1968, *Ent. Rev. Japan* 21 (1) : 26, Pl. 4, fig. A (Mt. Tsurugi).

*Hypolithus motschulskyi tsurugi* : Stibick, 1979, *Eos* 53 : 256.

本州の高地帯からのみ知られていた本種を四国の剣山から報告したのは Ohira (1963) で、以後本亜種についての記述は散見されるが、同地からの記録としては同年の Nakane (1963) があるのみのものである。筆者は前記の亜種 *kongoensis* の資料と同じく昨年緒方健君を通じ、愛媛県石槌山頂の成就社付近で採集された雌雄各一頭の標本を検査する機会に恵まれたが、この資料の特徴は一般的には *tsurugi* の原記載とよく一致するようで、ただ脚は暗褐色である点が *tsurugi* の “Legs clear reddish brown” より暗色なのと、前胸背板後角が *tsurugi* では “posterior angles of pronotum more strongly emarginated ……” (附図 L-b) であるのに対し、やや互に平行状で強く湾曲することなく先端のみ軽く外方に向く点で、多少異なる感はあるが、今回得られた石槌山産の個体での最も主要な他亜種と区別し得る特徴と思われる前胸背板点刻状態は、他のどの亜種と比較しても明瞭に大型でかつ密に点刻されている点は、*tsurugi* の “punctures of the pronotal disc more densely and evenly set ……” とよく一致するように思われる。又雄生殖器 (Fig. 28) の形状は原記載附図 (附図 F) に比して中片がより太く、側片先端部はより長形で感覚毛も短い点やや異なるようであるが、結論としては同一亜種個体群と認めてよいものと思う。筆者は剣山産の雌個体をみていないが、今回の石槌山産の雌における貯精囊内のキチン板形状 (Fig. 29) は全体的には台高山系亜種 *taichii* に似ており、小型キチン板がより大型である点が異なる。又 *kongoensis* とは相当異質のものである。

なお、石槌山からの記録はこの種の最南西分布となるので以下にその採集記録を記しておく。  
1雄1雌、愛媛県石槌山成就社付近、1982年5月9日、西田宏採集。

### *Harminius singularis nihonicus* Kishii, 1979, stat. nov.

ニホンムネスジダングラコメツキ

*Harminius nihonicus* Kishii, 1979, *Annl. Rep. priv. Schs. Kyoto Pref.* 17 : 4~5, figs. 17, 18, 65, 66. (Tokushima, Kôchi, Nara & Gumma).

*Harminius nihonicus* : Baba et Kishii, 1981, *Trans. Essa Kontyû Dôkô-kai* 52 : 9, fig. 7 (Niigata).

*Harminius (Harminius) singularis* : Miwa, 1934, *Fauna Elat. Jap. Emp., Dept. Agr. Govt res. Inst., Formosa* 65 : 108 (Towada & Chiuzenji), and many other reports from Honshû, Shikoku & Kyûshû.

筆者 (1979b) は邦産 *Harminius* 属を *singularis*, *nihonicus*, *nikkoensis* 及び *galloisi* の4種に分けることを提唱したが、その際 *singularis* の雌個体を検し得なかったため、後、馬場・岸井 (1981) でも触れたように *singularis* と *nihonicus* は同一種内での別亜種の可能性を示唆しておいた。これは貯精囊内にある弱くキチン化した刺状突起群の状態を比較することが、この属では重要であるためであった。今回、緒方健君の好意で北海道羅臼岳産 (1982年7月18日、T. Sukenaga 採集) の *singularis* の1雌標本を検査する機会をもち、その貯精囊 (Fig. 32) を調査し得たのであるが、それは当初予想したように *nihonicus* 及び *nikkoensis* と同系の特徴をもち、その何れよりも刺状突起は著しく少なく、その分布範囲も狭い点で、他の外部特徴の差異点と併せ考慮する時、*nihonicus* とは異なる個体群であることは確かであるが、本属内では *galloisi* 程の大きな違いはないので、*nihonicus* は *singularis* の本州以南地域での別亜種群とみなすのが妥当な処置であると考えられる。



## *Harminius nikkoensis* Miwa, 1928

ニッコウムネスジダンダラコメツキ

(Fig. 31)

*Harminius nikkoensis* Miwa, 1928, *Ins. Mats.* 2 (3) : 134, Pl. 5, fig. 3 (Chiuzenji).

*Harminius* (s. str.) *singularis* (Lewis, 1894), ab. *nikkoensis* : Miwa, 1934, Fauna Elat. Jap. Emp., Dept. Agr. Govt. res. Inst., Formosa 65 : 108.

*Harminius singularis* (Lewis, 1894), var. *nikkoensis* : Nakane et Kishii, 1956, *Suppl. Color. Ill. Ins. Jap. Col.*, Osaka : 20.

*Harminius nikkoensis* : Kishii, 1979, *Annl. Rep. priv. Schs. Kyoto Pref.* 17 : 5, figs. 15, 64 (Nagano & Fukushima).

当初独立種として記載された本種は、後、原著者 (1934) により北海道原産の *singularis* の一異常型として扱われたが、その後の研究者も一般にその処置に従っていた。Kishii (1979a) は 2 頭の雌標本に基いてこれを独立種とみなした。今回岐阜の穂積俊文氏の御好意で、長野県大滝山 (1955年7月24日、穂積俊文採集) 産の雄個体を検する機会に恵まれたのであるが、触角第 2 節の形状、極めて明瞭に圧平されて全く膨隆を示さない上翅間室、上翅に存在する軟毛基部が点刻状でなく微小な顆粒状であること、及び毛斑のみられない上翅その他の特徴は雌個体とよく一致し、独立の種個体群であることは間違いないものと思う。又その生殖器 (Fig. 31) はこの属では互によく似ていて種毎の明瞭な差異を見出すのが困難であるが、*nikkoensis* では *nihonicus* よりも *galloisi* に近い感があり、側片先端のふくらみはより強く、その基部はより狭い。しかし雌における貯精囊内の刺状突起群の状態から判断すると矢張り *singularis* に近いもので、二群に分れる *galloisi* とは異質といえよう。

## *Orithales yezoensis yatsuensis* Kishii, 1966, stat. nov.

ヤツクシヒゲヒラタコメツキ

(Fig. 23)

*Orithales* ? *yatsuensis* Kishii, 1966, *Bull. Heian High Sch.* 10 : 1, Pl. 1, fig. 2 (Mt. Yatsu-ga-dake).

*Orithales* 属の本邦からの記録は極めて稀で Miwa (1934) が *yezoensis* を記載してから久しく報告がなく、Kishii (1966) が長野県八ヶ岳から別種 *yatsuensis* を記載したのが再度の記録となるが、この標本は雌のため属としての主要特徴の一つとみなされる雄触角形状が不明のため *Orithales* 属に含めるのにいささか疑念を残したままであった。次いで大平・保田 (1978) は大雪山黒岳の雄標本により *yezoensis* の記載以来二度目の記録をした。その際旧北区域に広く分布する *serraticornis* (Paykull, 1800) との類似性に触れ、多分これと同種か別亜種位であろうと推測し、分類の処置は後に大平がなすであろうと述べて今日に到っている。なお Miwa (1934) の原記載には標本の性は明示してなく、又その図 (Pl. VII, fig. 28) は手書きのせいもあるであろうが性の判断はやや困難である。しかし記載内容は雄のそれであり、前記大平・保田も文中で雄と断定している。

今回、筆者は緒方健君の御好意で京都府立大学の沢田佳久君 (現在は九州大学、大学院) が北海道愛山溪温泉で採集した *yezoensis* の 1 雄個体 (1982年7月2日採集) を検し得たが (Fig. 19), これと *yatsuensis* と比較検討の結果、両者間には性差の他に、体下面色彩で *yatsuensis* の方は赤褐色味が強く、触角第 2・3 節ともに長三角形でこの両者を合せた長さは

第4節に略等しく、*yezoensis* のように第2節が粒状で第3節は短三角形で両節の合計長は第4節より著しく短かいこと、前胸背板上点刻は *yatsuensis* の方が明らかに大きく密で、さらに前胸後角は互に殆んど平行状でその先端は明らかに後方に突出する。これは *yezoensis* では原記載にもあるように明らかに先端が外側方に突出して決して平行状ではない点で明らかに異っている。これらすべてが性差とは考えにくく、又同時にこの両者が別種であるとするにはその形態上の差が接近しており、以上の点から考察する時、この両者は同一種内の地理的隔離による別亜種とするのが妥当のように思われる。なお、*yezoensis* の雄生殖器形状はまだ図示されたものはないので示しておく (Fig. 30)。

*Ampedus (Ampedus) kurama* Kishii, sp. nov.

クラマアカコメツキ

(Figs. 21, 22, 33, 34 & 35)

上翅の赤い *Ampedus* 種が本邦に何種分布するのか現在の段階では明瞭な数をあげることは極めて困難である。すでに記載されたものでも略30種余りあり、と同時に未記載の近似種が相当多く、これらの整理解明にはなお時日を要すると思われる。隣邦ソ連でも Gurjeva (1979) によればこの上翅の赤いものだけでも50種あまりも分布するようで、旧北区域で多様に分化した、或いは多分分化しつつあるグループであることは間違いないものであろうが、その種間における形態的差異が少なく、又差異があっても微妙な程度の違いであることがほとんどで、豊富な資料と相当な分類経験をもたぬと種名決定は難しい。このグループに限らず、コメツキムシ科甲虫の分類は他の甲虫諸科に比しその種数の多い割には分類の難しい仲間であることはこれ迄もよく云われているが、両性生殖器構造の比較研究が一般化、常識化した今日では種の同定は過去に比べ容易になってきたことは事実であり、*Ampedus* 種でもこの研究が有力な武器であるが、それでも矢張り多くの資料に基く豊かな経験と細心な観察の必要な、現在なお同定の最も困難なグループである。

今回記載する *kurama* も又近似種の多いもので、特に *chlamydatus*, *alticola* (= *montanus*) 及び *convexicollis* 等の Lewis (1894) が記載した諸種に極めてよく似ているが、大平 (1973 a,b,c) の模式標本研究による有益な論著によりこれら Lewis 種の特徴がかなり明らかになった結果、それらとの違いが容易になったものである。

*Ampedus (Ampedus) kurama* Kishii, sp. nov. (Figs. 21, 22 & 33~35)

*Male.* Length 8.5~9.6 mm, width 2.6~2.8 mm.

*Female.* Length 10.6 mm, width 3.1 mm.

Rather stout, narrow distinctly, a little flattened above as well as beneath medio-longitudinally, clearly parallel-sided from pronotal middle to behind middle of elytra, and plainly shining, especially at pronotal disc. Black with 3 basal segments of antennae partly and legs wholly dark brownish red, elytra bright reddish except for basal edges and apices clearly black narrowly. Pubescence black, long, distinctly erect and dense on above surface, more or less brownish, rather short and subrecumbent on the under.

Head moderate, rather broad and feebly convex above roundly between eyes, then slightly declivous antero-downwards; relative breadth of each eye and vertex between eyes in dorsal view 6 : 29 in male, and 5 : 34 in female; front well limited, roundly prominent medianly, and clearly carinate basally. Punctures not so small, strongly punctate,

rather dense, single and a little uneven in density and size; surface entirely smooth and average spread among punctures a little wider than puncture diameter.

Antennae not so slender, slightly longer than head and prothorax together in male, weakly shorter in female; relative length and width of 1st to 5th joint as 10 : 4, 4 : 3.8, 5.5 : 4.2, 9.5 : 7 and 9 : 7 in male respectively, and 10 : 5, 4.5 : 4, 6 : 4.2, 10 : 6 and 9 : 6 in female; basal joint robust and cylindrical; 2nd smallest and subglobose; 3rd subtriangle; 4th to 10th clearly serrated, each joint progressively decreasing in width towards extreme joint; 11th ca. 2.4 times as long as wide and rhombic.

Pronotum widest at middle, then gently narrowing anteriorly, subparallel-sided posteriorly; disc simply and slightly convex above, without any concavation nor suture at middle; relative median length and basal width 50 : 52 in male and 50 : 54 in female; lateral margins in dorsal view almost visible exclusive of anterior ends only in male, and of anterior 2-5ths in female; rear angles triangular, elongate, extending backwards, scarcely divergent outwards in male, entirely parallel-sided mutually in female; each with a short clear carina and acute apex. Punctuation conspicuously smaller and sparser than that on head vertex, single and uneven in density and size; interstices among punctures perfectly smooth; average distance among punctures clearly wider than puncture diameter.

Scutellum subtongue-shaped, slightly declivous antero-downwards, widest behind middle, almost flattened, without median carination; relative length and width in median measurements 13 : 9 in male and 14 : 9 in female; plainly constricted behind basal angles which are distinctly and roundly enlarging outwards; anterior margin well limited roundly, and feebly elevated; posterior apex roundly ended; punctures single, very fine and sparse.

Elytra parallel-sided behind humeri to apical 2-5ths, then gently converging to apices, which are moderate-fomed; sutural length and humeral breadth in relative measurements 50 : 19.5 in male and 50 : 20 in female; striae discontinuously grooved with uneven-sized deep and more or less dense punctures; interstrial surface rather flattened, partly and weakly elevated above lengthwise, having fine sparse and a little uneven punctures, with more or less traverse creases partly.

Propleural punctures denser and evener than that on pronotal disc, single and elongate, gently becoming denser anteriorly; as well as posteriorly; surface smooth entirely. Prosternal punctures sparser and uneven than those on propleuron, and round-formed. Prosternal process moderately bent inwards behind procoxae, then projecting backwards substraightly, not so elongate, with apex bluntly ended having no emargination. Metasternal punctation a little denser and evener than that on prosternum; surface with weak microscopical and shagreen-like sculptures partly. Legs moderate.

Genital organs as figured (figs. 33~35), prickles of bursa copulatrix not so robust, elongate and ca. 22~26.

Described from a male holotype, 2 male and 2 female paratypes, Kurama, Kyoto Prefecture, May 5, 1965, K. Tsumura leg.

*Remarks.* This new species intimately resembles *Ampedus (Ampedus) alticola* Silfverberg, 1977 (= *montanus* Lewis, 1894), and *A. (A.) convexicollis* (Lewis, 1894) in the general outline, though the reddish elytra and less prickles of the bursa copulatrix in this new species are easily distinguishable from these species having the yellowish brown elytra.

Moreover, it is closely allied to *A. (A.) chlamydatus* (Lewis, 1894), but the punctures of elytral-striations are distinctly larger and denser than those of *chlamydatus*.

***Ampedus (Ampedus) vestitus yakuinsulanus* Kishii, nom. nov.**

ケブカクロコメツキ屋久島亜種

*Ampedus (s. str.) vestitus yakuensis* Kishii, 1979, *Annl. Rep. priv. Schs. Kyoto Pref.* 17 : 7, figs. 22, 56 (Is. Yaku-shima). Junior primary homonym of *Ampedus (s. str.) yakuensis* Kishii, 1976, *Sci. Rep. Kyoto Pref.* 14 : 10~11, figs. 10, 17, 22 (Is. Yaku-shima).

筆者 (1979a) は単純な感違いで *Ampedus (Ampedus) vestitus* ケブカクロコメツキの屋久島亜種に *yakuensis* なる新名を与えたが、これはすでに *A. (A.) yakuensis* ヤクオオアカコメツキに先取されているので、今回上記のように新名を与え訂正するものである。

***Ampedus (Ampedus) yaku ohdai* Kishii, subsp. nov.**

オオダイクロコメツキ

(Figs. 1, 20, 36, 37 & 38)

紀伊半島の特に台高山系と称される山地で5~7月頃、普通種ではないが比較的容易に採集される *Ampedus* 種に *japonicus* (= *rufipes*) によく似て体型がより細形でやや軟弱な感じのする種があり、筆者は従来これを徳島県から記載された Ohira (1974a) の *A. (A.) yoshidai* とみていたのであるが、最近の検討の結果この *yoshidai* は *A. (A.) kasugensis* Kishii, 1966 と同種と考えられ、かつ台高山系に分布するものは筆者 (1969) が屋久島から1頭の特異な色彩をもった雌標本により記載し、最近複数の雄標本を検し得た *A. (A.) yaku* に極めて近い種であることが判明した。

この屋久島に分布するものは雌の上翅が黄褐色で、会合線部が暗褐色であるが、雄ではほとんど黒色で側縁部の全部もしくは前半部のみが茶褐色で、一見本州高地でみられる *Ampedus (Lewisiellus) gracilipes* に似た感じをもたせるものである。台高山系に産するものの両性生殖器構造を詳細に検討した所、この屋久島のものに非常に類似していることは容易に認められ、かつ他の形態上の特徴からもこの両者が同一種であることは間違いなく、それぞれは色彩その他下に記す特徴により地理的隔離による別亜種群に分化したものとみなすのが妥当としたものである。

なお、平松 (1977) が“和歌山県産コメツキムシ科目録 III”の中で護摩ノ壇山産の2頭の標本に基き、*A. yoshidai* を本州から初の記録として報告したが、これは筆者の同定せるもので、この標本がここに記載する新亜種 *ohdai* に他ならぬものなのでここで訂正しておく。

*ohdai* はタイプ指定するもの他に約10頭程検しているが、現在の所その分布域は大ヶ台原を中心とした山地に限られている。ただ長野県の山地から似たものが採集されているのでこれとの関連についてはあらためて検討を加えたく考えている。

***Ampedus (Ampedus) yaku ohdai* Kishii, subsp. nov.** (Figs. 1, 20 & 36~38)

*Ampedus (Ampedus) yoshidai* : Hiramatsu, 1977 (*nec* Ohira, 1974), *Nankiseibutu* 19 (2) : 70, fig. I (Mt. Gomanodan).

This new subspecies may be distinguishable from the typical subspecies from Is. Yaku-

shima : *Ampedus* (*Ampedus*) *yaku* Kishii, 1969, *Bull. Heian High Sch.* 14 : 7~8, Pl. 1, fig. 2 ·····, by the continuing structures.

*Male.* Length 8.8~10 mm, width 2.4~2.6 mm.

*Female.* Length 8.8~11 mm, width 2.4~2.8 mm.

Antennae blackish brown except for reddish apical joint and for 3 basal segments more or less pale. Elytra entirely black. Abdominal sternites black with apical segment marginally reddish. Antennae more slender and longer than nominate subspecies; relative length and width of antennal joint of 1st to 5th as 9 : 4, 4.5 : 3.5, 5 : 4, 9.5 : 6 and 9 : 5.5 in male, and 10 : 4.5, 5 : 3.5, 5.5 : 4, 9 : 5 and 8.5 : 5.5 in female. Pronotum a little widened outwards near middle. Prosternal process elongate, especially apex well projecting backwards (Fig. 1) instead of short in subsp. *yaku* (Fig. 2). Male genitalia as figured (Figs. 36 & 37), each apex of lateral lobes shorter than that of typical subspecies. Prickles of bursa copulatrix (Fig. 38) robustier than those of nominal subspecies and very many.

Described from a male holotype, Mt. Ohdai-gahara, Nara Prefecture, July 7~8, 1973, K. Mizuno leg.; 2 male and a female paratype, ditto, June 15~16, 1974, K. Mizuno leg.; a male paratype, ditto, May 25~26, 1981, S. Naomi leg.; a male paratype, ditto, June 13, 1982, K. Mizuno leg.; 2 female paratypes, ditto, June 20, 1982, K. Mizuno leg.

*Remarks.* In the body coloration this new subspecies of *Ampedus* (*Ampedus*) *yaku* is similar to *A. (A.) japonicus* Silfverberg, 1977 (= *A. rufipes* Lewis, 1894), but the body is more slender and narrower than the latter, and punctures on the pronotal disc are conspicuously finer and sparser than those of *japonicus*.

### *Ectinus miyakei* Ohira, 1964

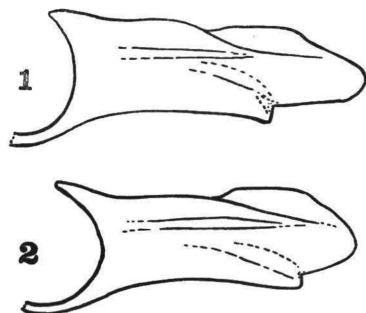
ミヤケムネナゴメツキ

(Figs. 9, 43, 44 & 45)

*Ectinus miyakei* Ohira, 1964, *Kontyû* 32 (2) : 233, figs. 1-A, 2-A, B (Mt. Kujû in Ôita).

*Ectinus miyakei* : Kishii, 1979, *Bull. Heian High Sch.* 23 : 36, 42, figs. 11, 64 (Mt. Ohdai-gahara-san in Nara).

筆者 (1979b) が奈良県大台ヶ原山産の1雌標本を報告した際、九州産の雌個体を検する機会がなく、その形態的特徴において全く同物かどうかの点でいささかの疑念をもつ旨述べておいたが、今回大分県九重山群大船山産の複数個体を調査することを得た結果、大台ヶ原山のもの *miyakei* と同種であることを確認したが、以下に述べるような若干の形態的差異もあり、これらが別亜種個体群を構成する可能性はあり、将来、本州産の雄を含む複数個体資料を研究した上で検討を加えてみたい。



Figs. 1-2. Profile of pronotal process.  
1. *Ampedus* (*Ampedus*) *yaku ohdai* Kishii, subsp. nov.  
2. *A. (A.) yaku yaku* Kishii, 1969

この両地域産のものは大きさ、形、一般的色彩では互によく一致しているが、脚部色彩は大台のものが明赤褐色で九重の黒褐色とは明瞭に異なる。又体毛はやや黄味がかっておりかつ明らかにより密である。さらに原記載では触れていないが、本種では前胸側縁線は中央近くで途切れて不完全であるが、大台のものは九重のもののように大きく明瞭に途切れることはないし、貯精囊内のキチン板はやや太目の円形を呈し、やや長目である九重産資料のものとは異なる点が認められる (Figs. 44 & 45)。このようにこの両者の関係については本州産雄を含むより多くの資料の検討が望ましい。なお九重産雄の生殖器も示しておく (Fig. 43)。

なお、上で触れた前胸背側縁線の状態は本属 *Ectinus* ではなかなか重要な特徴で、今までほとんどすべての研究者がこの点については触れていないか或は無視しているのであるが、少なくとも邦産 *Ectinus* 種を検討する際、後述する検索でも触れるように重視して差支えないものとする。この側縁線が常に完全で決して中央近くで途切れたりしないのは、本属の中では両性生殖器構造でもやや異質な感を与える *higoni*, *insidiosus* 及び *exulatus* 等で明瞭であり、かつ *dahuricus*, *puberulus* 及び *sepes* でもそうである。一方 *longicollis*, *nipponicus*, *obscurolineatus* 及び *miyakei* では常に中央或はそれよりやや前方で完全に途切れて不連続となり、しかもその部位は常に強く圧平されて凹んでいる。又、*obakoe* 及び *sericeus* はこれら両グループの中間的な存在で、一般的には後者の不連続群に入るのであるが、多くの資料を検すると一部のもの不明瞭ながらこの側縁線が連続しているものも認められる。ただこの場合でもこの不明瞭な部位が圧平される点で矢張りこれら両種が後者のグループに入るものとみなされよう。この特徴が本属内でどのように位置づけらるべきか、現在の所判断できかねるが両性生殖器構造特徴の関連性からみて極めて重要なものとみて差支えないものようである。

先 (1979b) の報告で筆者は *miyakei* の本州での記録を初めてとしたが、大平 (1974b) が鳥取県大山産の標本を図示 (附図 1-B) しているので訂正しておく。ただ本文中にはこの標本及び *miyakei* についてのコメントは全く見られない。又、森田 (1965) が富山県朝日岳から本種を記録しているが実体は不明である。地域的な面から考えると *puberulus* の誤りとも思われる。

### *Ectinus sericeus sericeus* (Candèze, 1878)

カバイロコメツキ暗色型  
(Figs. 14, 39~42 & 51~56)

*Agriotes sericeus* Candèze, 1878, *Elat. nouv.* 2, *Annl. Soc. ent. Belg.* 21 : 49 (Awomori).

*Agriotes sericeus* : Lewis, 1879, *Ent. monthl. Mag.* 16 : 157 (Awomori).

*Ectinus sericeus* : Nakane et Kishii, 1955, *Color. Ill. Ins. Jap. Col.*, Osaka : 12, Pl. 5, fig. 1 (Noziri-ko), and many other authors.

*Ectinus candezei* : Kishii, 1956 (*nec* Lewis, 1873), *Akitu* 5 (1) : 19.

*Ectinus candezei candezei* : Kishii, 1961 (*nec* Lewis, 1873), *Bull. Heian High Sch.* 5 : 47, Pl. 10, figs. 8, 9.

*Ectinus sericeus sericeus* : Baba et Ohira, 1967, *Trans. Essa Kontyû Dôkô-kai* 37 : 32 (Niigata).

本邦産の *Ectinus* 属では最も普通かつ分布域の広い種であるが、これ迄の記録をみる時その分布中心は本州中央部以北に偏っており、南西日本からの記録は散見されるが、その個体数は急減しむしろ稀な種とされていたようである。しかし筆者の検した南西日本産の資料で特に目立つのは上翅が暗色化する傾向が極めて顕著で全く黒色になり一見他種とまぎらはしくなることで、それと共に個体数も決して少ないものでないということである (Figs. 53~56)。



一般に本属の上翅色彩は赤褐～黄褐色のグループと黒色のグループがあり、従来の検索表では簡便な識別点として広く用いられているが、本属に限らずコメツキムシ科全体でもこの体色、体毛色彩等があまり当てにならぬ特徴であることが屢々あり、注意を要するものであろう。もっとも *Ectinus* 内でも *puberulus* や *exulatus* ではこの両色彩が混在することは知られており、又筆者(1961)が対馬から記載した別亜種 *babai* では会合線附近が暗色化する傾向が強い。なおその際同時に記録した *sepes* は実はこの *babai* の暗色化した個体であることが今回の再検討の結果判明した。これについては次項で述べるが、この *sericeus* の暗色化傾向は雌において特に著るしく、筆者が検し得た資料中で暗色型が得られた奈良県大台ヶ原山地 (Figs. 53 & 54), 四国山地 (Figs. 55 & 56) 及び九州山地の標本雄8頭、雌15頭の中で、上翅の赤褐色のものは僅かに雄5、雌1に過ぎず、この雄の中で2頭は会合線部が広く暗色化しているもので、近畿北部以東でみられる個体群と同様の上翅色彩をもつものは大台ヶ原山産の雄3頭及び雌1頭のみであった。

従来のこれら南西日本地域からの記録を検討する時、本種 *sericeus* については類似種で体が暗色である *sepes* や *exulatus* との関連において種々の問題点を含むように思われる。特に *sepes* として記録報告されたものの中には上記の *sericeus* 暗色型が混入している可能性大であるという疑念を残し得ぬものが多い。例えば大平・吉田(1975)が徳島県から記録した *sepes* はその図(附図 1, G: *Ectynus sepes!*)から判断すると、どうも *sepes* の雌個体とは思われ難く、筆者の検した高知県、愛媛県産の *sericeus* 雌の暗色型 (Fig. 56) とその一般外形は著るしく酷似しているようであるし、又、高倉・城戸(1979)の福岡県のリスト中には *sepes* の雄交尾器の図(附図 1, G, 古処山)があるが、この図からはどうも *sepes* よりも *sericeus* に近い感じを抱かせる。いずれも速断しかねるが *sepes* はなかなか珍しい種のもので、後述する多くの記録にあるような多いものとは思えない。

Lewis (1879) は *sepes* の記載中に原産地を“Kawachi”としてあるが、後(1894)にはこれを“Kii”と変更してあり資料は1頭のみと記してある。筆者はまだこの地域の *sepes* を検していないが、紀伊山地には暗色化した *sericeus* が多いのでこれと間違えて同定することは多いと思う。しかし *sepes* の原記載(1879)と後の記述(1894)をよく読む時、矢張り *sericeus* とは異質であることが分かるが、色彩にとらはれると *sericeus* 暗色型を *sepes* としてしまう可能性は大きいと思われる。この両種の違いは両性生殖器構造が相当に異なるので問題ないが、ただ雌の場合その貯精囊内キチン板形状は互に同系を思わせる似た形状なので特に注意を要する。筆者(1979a)が図示した *sepes* 雌のこのキチン板図(附図, Pl. 5, fig. 58)は実体は *exulatus* のものであることが最近の検討の結果判明したのであらためて正しい *sepes* のそれを示しておく (Fig. 46)。これは *sericeus* のそれに類似するが、刺状突起の数が明らかに多くかつ密に分布する点区別は容易と思う。しかし筆者が確認し得た *sepes* 雌の資料はこの一頭(滋賀県比良山産)あるのみであり、これに地域的、個体的変異があるか否かについては不明である。又この結果、筆者(1979a)が *sepes* を *exulatus* 等と関連性の強い種と考えたことは誤りで、明らかに *sericeus*, *obakoe* と同じグループに属するものである。一般的には *sepes* と *sericeus* とでは触角第2～4節の長さ、形状の差が区分点として有効であるものようで、Lewis がその近似種として比較の対象種とした *exulatus* とは寧ろかなり異質のもので、これとは前胸腹板突起末端形状の著るしい違いで容易に区別し得る。これら3種の南西日本での分布状態をみると、*sericeus* は従来の記録にある以上に多い種で、山地には広く寧ろ普通に分布しているものと思われ、*exulatus* は四国、九州では普通で、*sepes* は分布域の広い割には珍しいものと云えよう。

従来の記録をみると的場・平松(1974)が和歌山のリスト中で *sepes* を普通種とした点、石原及び他(1953)が石槌山及び面河溪から報告した目録中で *sericeus* は“当地では余り多くな

い”として *lex.* のみ記録し、*sepes* の項では“common (中根氏同定)”としてあるが、これらの資料は再検討が必要と思われる。又九州からの記録をみると中条及び他 (1959) の“彦山昆虫目録Ⅱ”の中に *sepes* は4～6月にかけて実に46頭の記録があり、*sericeus* の記録がない点は、前述の高倉・城戸 (1979) の論著と共に矢張り疑問の点が多い。その他、松浪及び他 (1974) の熊本のリスト中には *sepes* と *exulatus* の記録はあるが、*sericeus* は見当たらないし、高倉 (1974) の鷹ノ巣山のリスト中にも *sepes* は5～6月頃多いとあり、*sericeus* の記録がないのは前に示した彦山のリストと同じである。松田・中尾 (1976) の九重山のリスト (予報) 中では極めて多くの *exulatus* (127 exs.) の記録があり、*sepes* 及び *sericeus* は共に少なく、*exulatus* の同定は容易なので問題はないと思うが、いささかの疑念は残る。

以上の多くの例から推察するとこれら地域の *sericeus* はほとんどが暗色型であり、*sepes* に、或は時として *exulatus* と見誤まられている可能性をなしとし得ぬのでないかということであり、勿論筆者の推論はあくまでも推論で実際の資料に当らぬと何とも云えぬが、同好の士は一度詳細に検討して頂きたいものである。

さてこの *sericeus* 暗色型個体群が、本州東北地域の個体群或いは北海道の個体群 (Figs. 51 & 52) と色彩以外での差があるかという点では、個体変異的差異はあってもこれと云った注目すべき差異はみられない。両性生殖器構造でも同様で、強いてあげるなら雄生殖器側片末端の微妙な差と、貯精囊内キチン板形状がやや異なるように思う位で、これを別ける必要はないものと思う (Figs. 39～42)。

### *Ectinus sericeus babai* Kishii, 1961

ツシマカバイロコメツキ

(Figs. 15, 57 & 58)

*Ectinus candezei babai* Kishii, 1961, *Bull. Heian High Sch.* 5 : 47, Pl. 10, figs. 10, 11 (Is. Tsushima).

*Ectinus sepes* : Kishii, 1961 (*nec* Lewis, 1879), *ibid.* : 47, Pl. 10, figs. 12, 13 (Is. Tsushima), **syn. nov.**

*Ectinus sericeus babai* : Ohira, 1976, *Tsushima no Seibutsu* : 661.

本亜種は上翅会合線が広く暗色化しているのが原名亜種と異なる主要な特徴であるが、他に体がより小さいこと、触角各節の形状や長さの差、及び前胸背板点刻状態の違いが認められる。

筆者 (1961) が記載時、同時に採集された資料に基いて *Ectinus sepes* を対馬からの初の記録として報告したが、前項 *sericeus sericeus* の所でも触れたようにこの個体はすべて *sericeus babai* の暗色化個体であることが、最近の検討の結果確信し得たので上記のように *sepes* の対馬からの記録は剝除される。

なお雄の上翅が常に赤褐色であるわけではなく、その後検し得た2頭の雄資料 (矢立山, 1968年5月3日, Y. Kiyoyama 採集) (Fig. 57) は全くの暗色型個体であり、雌の中にも暗色化したものがみられた。又雌における原名亜種との違いとしては体が明らかに小型であることと、貯精囊内キチン板形状の違い及び刺状突起数が明らかに少ない等の点で判別は難かしくない。

### Key to Japanese *Ectinus*-species

邦産 *Ectinus* 属の種の検索

(Figs. 3～15 & 39～57)

邦産 Agriotinae 亜科に属する種類の分類は亜科そのもの及び属の段階でもなかなか変遷の



多いグループであるが、現在では略固定化したように思う。この亜科内で旧北区域に限ると *Agriotes* 属の種が最も優位を占めているが、本邦では *Ectinus* 属が *Dalopius* 属と共に最も多い種数をもっており、従来用いられている本属の検索では例えば大平 (1971) でみられるように体色、特に上翅・触角及び体毛の色彩が主要キイとして用いられている例が多いが、最近のように本邦各地から極めて豊富な資料が蒐集され、これが詳細に検討された結果、他のグループでもそうであるがこれら色彩には地域の変異が屢々みられ、固定した特徴とは到底なり難いことが判明してきているので、相当の経験を積みぬと従来の検索に従う時その同定に確実を期し難いといえよう。

最近では両性生殖器構造が種や系統の分類に有力な特徴となることが知られ、これを用いると種の同定はほとんど間違いなくできるようになっているのであるが、雄生殖器はとも角として、雌における貯精囊内キチン板等の形状を観察するのは一般的には困難であり、矢張り外部形態上の特徴による分類が実際的であることは論をまたない。

筆者 (1979b) は邦産 *Ectinus* 属の両性生殖器構造からみた類縁関係について述べたが、その後の研究の結果としてここに一般外部形態を主とした検索表を作り一般の便に供したいと思う。ただし未記載 (多分新種) で *sericeus* や *puberulus* に似たものもあり、かつ同種内での地域の変異をもつものの取り扱いが未解決の問題として残されているので、これらを含めた完全な形の検索作製は将来に待ちたい。

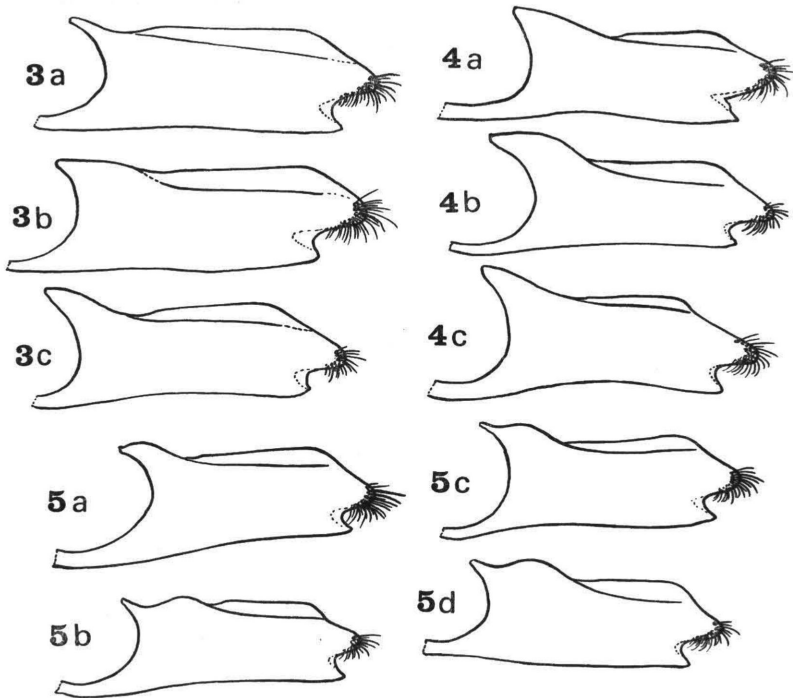
### 邦産 *Ectinus* 属の種の検索

*Ectinus* Eschscholtz, 1829, In Thon, *Ent. Archiv* 2 (1) : 34.

Type species : *Elater volhynensis* Fischer-Waldheim, 1824, *Ent. Imp. Russ.* 2 : 212  
(= *Elater aterrimus* Linnaeus, 1761), subsequent designation by Hyslop in 1921.

1. 前胸腹板突起先端下面は先端近くで小さくかつ広角度にえぐられ、先端部内方は後方に伸長するが極めて短かい (Figs. 3~5)。前胸側縁線は常に完全で中央近くで途切れることはない。雄生殖器中片は細長く、その基部片は短かい。雌貯精囊内キチン板は非対象の2枚からなりその刺状突起は長く特に周縁部では著しく長い。…………… 2.
- 1'. 前胸腹板突起先端下面は先端の $\frac{1}{3}$ ~ $\frac{1}{4}$ の所で大きくかつ一般には鋭角的にえぐられ、先端部内方は長く後方に伸長する (Figs. 6~15)。雄生殖器中片は太く、その基部片は長い。雌貯精囊内キチン板は常に対象形の2枚からなりその刺状突起は極めて短かい。…… 4.
2. 触角第2節は長く、第4節とほぼ等長である。…………… 3.
- 2'. 触角第2節は短かく、明らかに第4節より短かい。前胸背板後角内方にある縦隆線は後端で不明瞭となり後角先端に達することはない。体はほとんど黒色であるが触角と脚は常に褐色味を帯びる。体毛は黒色であるが屋久島のものでは灰黄色である。体長 8.5~10.5mm。分布：北海道、本州、佐渡ヶ島、四国、九州、屋久島。……………  
…………… *E. higonius* (Lewis, 1894) クロムナボンコメツキ (Fig. 3)
3. 前胸背板後角内方の縦隆線は明瞭で後角先端部に達する。体は広くやや圧平されるが強壯。全体黒色で触角と脚は常に赤褐色。体毛は灰褐色。体長 8~9.5mm。分布：本州、佐渡ヶ島、九州。(Gurjeva, 1979 は国後島からも記録)。……………  
…………… *E. insidiosus* (Lewis 1894) キアシクロムナボンコメツキ (Fig. 4)
- 3'. 前胸背板後角内方の縦隆線は弱く常に後角先端近くで不明瞭となり先端に達しない。体は細く筒型でやや軟弱。全体は一般に黒色であるが前胸及び上翅が赤褐色になることも多い。触角、脚は常に黄赤色。体毛は白黄色。体長 8~9.5mm。分布：本州、四国、九州。…

- ..... *E. exulatus* (Candèze, 1873) ムナボソコメツキ (Figs. 5, 49 & 50)
4. 触角第2節は明らかに第4節より短い。..... 5.  
 4'. 触角第2節は明らかに第4節と等長である。..... 11.  
 5. 前頭横隆線側縁は常に前縁に達し完全である。..... 6.  
 5'. 前頭横隆線側縁は不完全で前縁に達することはない。触角第2・3節は互に略等長。前胸側縁線は完全。体は黒色。上翅は赤褐色でほとんどの場合基部と会合線は黒く、個体により第3間室附近まで暗色化するものもある。触角・脚は赤褐色。体毛は白黄色。体長 11~13mm。分布：樺太，千島，北海道，利尻島，礼文島，本州（四国から草薙，1936の記録があるが疑わしい）。.....
- ..... *E. dahuricus persimilis* (Lewis, 1894) オオカバイロコメツキ (Fig. 6)
6. 触角第2節は円筒形で明らかに第3節より大型で長い。..... 7.  
 6'. 触角第2節は倒円錐形で第3節と略等長。前胸側縁線は前方 $\frac{1}{5}$ ~ $\frac{2}{5}$ の所で常に不完全，かつ明瞭に圧平される。..... 8.  
 7. 前胸側縁線は常に完全。雄触角第2・3節を合わせた長さは第4節と略等長。前胸は細長く中央値で巾の1.3倍以上。体は細く平行状でやや圧平される。黒色で触角，脚は赤黄色であるが，触角基部3節はやや明色。体毛は黄白色。雄生殖器側片先端は巾広く外方突起は短い。貯精囊内キチン板上の刺状突起は極めて密。体長 8.5~9.5mm。分布：本州，四国，九州。.....
- ..... *E. sepes* (Lewis, 1879) キアシムナボソコメツキ (Figs. 7 & 46~48)
- 7'. 前胸側縁線は中央近くで消失するか，又は極めて不明瞭で常に明瞭に圧平される。雄触角

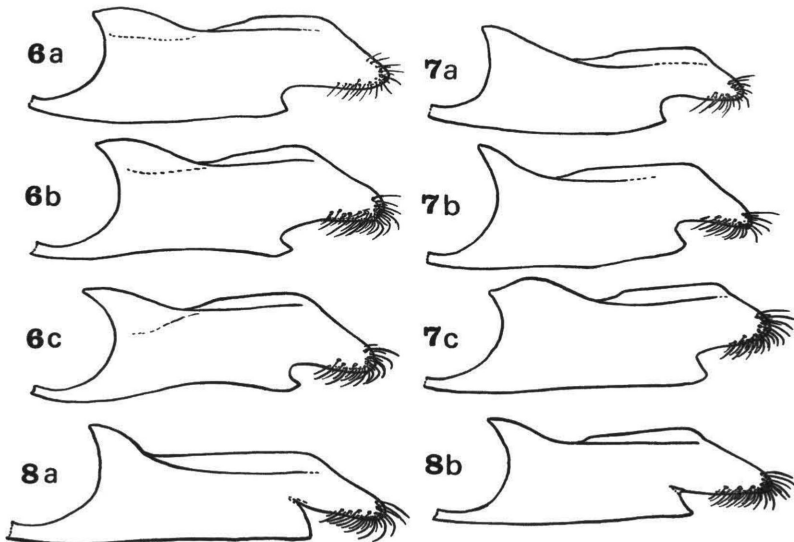


Figs. 3-5. Profile of prosternal process of *Ectinus*-species.

3. *E. higonius* (Lewis, 1894), a. Iwate, b. Nara, c. Is. Yaku-shima.  
 4. *E. insidiosus* (Lewis, 1894), a. Iwate, b. Nagano, c. Miyazaki.  
 5. *E. exulatus* (Candèze, 1873), a. Akita, b. Niigata, c. Kochi, d. Oita.

第2・3節を合せた長さは常に第4節より長い。前胸は長いが中央値で巾の1.2倍。体は円筒状に近い。黒色で上翅、触角、脚は赤褐色。体毛は灰黄色で前種より淡色。雄生殖器側片先端は大きく側方突起は長い。貯精囊内キチン板の刺状突起は明らかに疎である。体長7.2~8.3mm。分布：本州（秋田，新潟：従来秋田からのみ知られたが，最近新潟県蓮華温泉産の1雄を検した。1981年7月29~31日，水野弘造採集）。

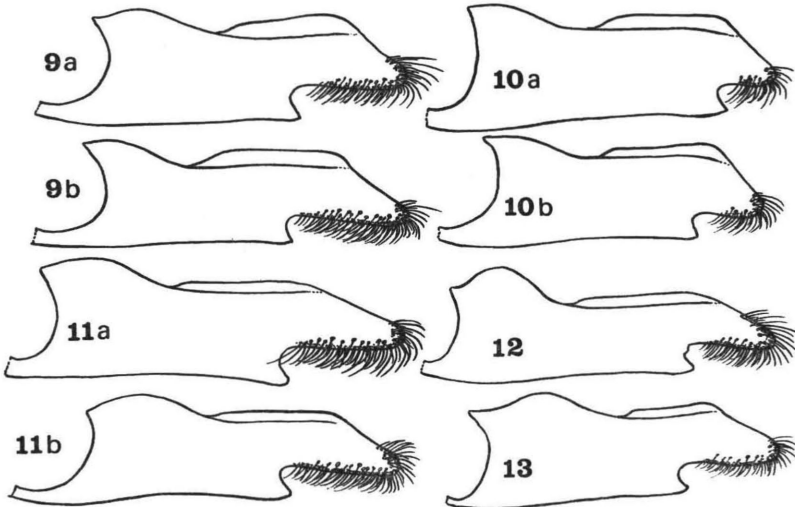
- ..... *E. obakoe* Kishii, 1979 オバコカバイロコメツキ (Fig. 8)
8. 上翅は黒色又は赤黄色の単色。雄生殖器側片先端は丸味をもち伸長しない。貯精囊内キチン板は巾がやや狭くやや長目である。..... 9.
- 8'. 上翅は赤褐色で常に基部，会合線は多少とも暗色化する。雄生殖器側片先端は多少とも後方に伸長する。貯精囊内キチン板は広くやや円形を呈する。..... 10.
9. 体は全体に黒色。体毛白黄色。（奈良大台ヶ原山のもの脚は赤褐色，体毛はより黄色が強い）。雄生殖器側片先端は巾広く丸味をもつ。体長12.5~15mm。分布：本州（奈良・鳥取），四国（徳島，愛媛），九州（大分，熊本）。.....
- ..... *E. miyakei* Ohira, 1964 ミヤケムネナガコメツキ (Figs. 9, 43 & 45)
- 9'. 体は黒色であるが，上翅，触角，脚は常に赤黄色で触角中央4~5節は暗色。体毛は灰白黄色。雄生殖器側片先端は略円形に丸まる。体長9.5~12.5mm。分布：本州（中部地方以北）。..... *E. nipponicus* Kishii, 1979 ニホンカバイロコメツキ (Fig. 12)
10. 上翅は肩部及び会合線のみ細く黒色。前胸背板上の点刻は明瞭に密で時に互に融合する。体毛は黄色。雄生殖器側片先端は小さく丸味をもち，後方に伸長するが長くない。側方突起はむしろ鋭く突出。貯精囊内キチン板は円板状であるが基部の膨らみは小さい。体長9.5~13mm。分布：本州（中部・関東地方の山岳地帯）.....
- ..... *E. longicollis* (Lewis, 1894) ムネナガカバイロコメツキ (Fig. 13)



Figs. 6-8. Profile of prosternal process of *Ectinus*-species.

6. *E. dahuricus persimilis* (Lewis, 1894), a. Is. Rebun-tô, b. Iwate, c. Nagano.
7. *E. sepes* (Lewis, 1879), a. Shimane, b. Kyoto, c. Miyazaki.
8. *E. obakoe* Kishii, 1979, a. Akita, b. Niigata.

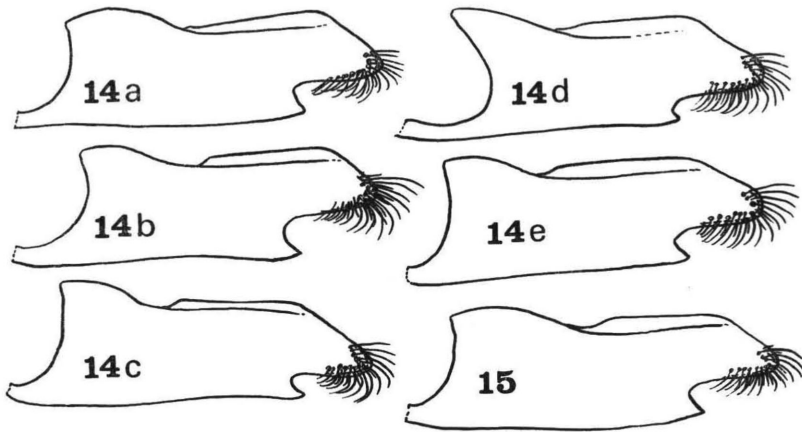
- 10'. 上翅は肩部及び会合線部が巾広く暗色化し、時に上翅のほとんど全域が暗色化するが、常に褐色を帯び完全に黒色となることはない。体毛は灰色でやや黄味がかかる。前胸背板上の点刻は密であるが互に融合することなく、前種より明らかに疎である。雄生殖器側片先端は明らかに長く後方に伸長し、側方突起は丸味をもち小さく突出するのみ。貯精囊内キチン板は円形を呈し、基部で側方に膨らむ。体長 9~12.5mm。分布：本州（北陸・近畿北部の山岳地帯）。… *E. obscurolineatus* Kishii, 1979 コゲチャムナボンコメツキ (Fig. 11)
11. 前胸側縁線は明らかに完全で、中央附近で強く圧平されることはなく側方によく発達している。大型で体はやや円筒形状。一般に全体が黒色であるが、時に上翅第4~8間室が広く明るい黄褐色を呈する個体もある。触角、脚は赤褐色。体毛は黄褐色。雄生殖器は *nipponicus* に近く、側片先端はより巾広く丸味をもち側方突起は鋭く側方に突出する。貯精囊内キチン板は *longicollis* 型でより巾広い。体長 12.5~14.5mm。分布：北海道、本州、四国、九州。…… *E. puberulus* (Miwa, 1928) キンケオオカバイロコメツキ (Fig. 10)
- 11'. 前胸側縁線は中央で強く圧平され不明瞭になり、時に途切れて不完全となるものもある。黒色で上翅は褐色又は赤褐色であるが、全体が暗色化し黒色になるものもある（近畿地方南部山岳地、四国、九州）。触角、脚は黄赤色で触角基部数節はより明色。体毛は黄色。雄生殖器は巾が広く、貯精囊内キチン板は長形で刺状突起は *longicollis* 等より細く長目である。体長 8~11mm。分布：ソ連沿海州地方、樺太、千島、北海道、利尻島、礼文島、本州、佐渡ヶ島、四国、九州。…… *E. sericeus sericeus* (Candèze, 1878) カバイロコメツキ (Figs. 14, 29~42 & 51~56) 体はより軟弱でより小型。雄は常に体全体が黒化し、雌は上翅赤褐色で会合線部暗色のものから全体暗色化したものまで混在。雄生殖器先端部はより小さい。貯精囊内キチン板は基部で原亜種のように強く狭まらない。分布：対馬。……



Figs. 9-13. Profile of prosternal process of *Ectinus*-species.

9. *E. miyakei* Ohira, 1964, a. Nara, b. Oita.  
 10. *E. puberulus* (Miwa, 1928), a. Nagano, b. Nara.  
 11. *E. obscurolineatus* Kishii, 1979, a. Toyama, b. Kyoto.  
 12. *E. nipponicus* Kishii, 1979, Akita.  
 13. *E. longicollis* (Lewis, 1894), Nagano.

…………… *E. sericeus babai* Kishii, 1961 ツシマカバイロコメツキ (Figs. 15, 57 & 58)  
 なお、両性生殖器構造については Kishii (1979b) の各図 (Figs. 24~69, ただし fig. 58 は *E. exulatus* に訂正) を参照されたい。



Figs. 14-15. Profile of prosternal process of *Ectinus*-species.

14. *E. sericeus sericeus* (Candèze, 1878), a. Is. Rishiri-tô, b. Iwate, c. Nagano, d. Nara, e. Ehime.  
 15. *E. sericeus babai* Kishii, 1961, Is. Tsushima.

### *Quasimus* (*Quasimus*) *japonicus* Kishii, 1959

ニホンチビマメコメツキ

*Quasimus* (*s. str.*) *japonicus* Kishii, 1959, *Bull. Heian High Sch.* 3 : 9~11, Pl. 2, figs. 4, 8, 15, 17, 23 & 28 (Kyoto, Mie & Tottori).

従来 Negastrinae 亜科の中でこの *Quasimus* 属及び近似の *Yukoana* 属の種で北海道からの確実な記録はなかった。唯“ヘリムネマメコメツキ”という和名のみで田口 (1981) が函館から記録したものがあろうと、これは或は *Yukoana* 属のものと思われるが確実なことは筆者には不明である。今回、緒方健君の好意により信頼できる北海道産資料である本種を検し得たのでここに記録しておくものである。この標本は本州産のものと極めてよく一致した構造をもち、僅かに複眼前方の頭楯線基部にある三角形状部の上方隆起線が後方で不完全な点が異なるようである。

1雄, Sekisho-highland, 上川, 北海道, 1982年7月8日, 沢田佳久採集。

### Bibliography

- 馬場金太郎・岸井 尚, 1981. 新潟県のコメツキムシ. 越佐昆虫同好会々報 52 : 3~22, 14 figs. (9, 10).  
 Candèze, Ernest C. A., 1873. Insectes recueillis au Japan par Mr. G. Lewis. Elatérides. *Mém. Soc. roy. Sci. Liège* (2) 5 : 1~33 (29).  
 …………… 1878. Élatérides nouveaux 2. *Annls Soc. ent. Belg.* 21 : 51~143.  
 中條道夫 他5氏, 1959. 彦山昆虫目録 II. 鞘翅目. 九州大学彦山生物学研究所 : 1~93 (15).

- Gurjeva, E. L., 1979. Fauna SSSR, Coleoptera, 12 (4), Elateridae. Zool. Inst., Nauka, Leningrad : 1~451, 787 figs.
- 平松広吉, 1977. 和歌山県産コメツキムシ科目録 Ⅲ. 南紀生物 19 (2) : 69~72 (70).
- Ishihara Tamotsu et alt., 1953. The insect fauna of Mt. Ishizuchi and Omogo valley, Iyo, Japan. *Trans. Shikoku ent. Soc.* 3 : 72~76 (75).
- Kishii Takashi, 1959. Elateridae of Is. Yakushima. The snappers of island (I). *Bull. Heian High Sch.* 3 : 1~24, 61 figs., 1 map & 2 tabs. (9, 10, 11 & 18).
- ..... 1961. Elateridae of Is. Tsushima. The snappers of island (II). *Bull. Heian High Sch.* 5 : 1~56, 11 pls., 8 phs. & 2 tabs. (47).
- ..... 1966. Some new forms of Elateridae in Japan (IV). *Bull. Heian High Sch.* 10 : 1~11, 2 pls. (1~2).
- ..... 1969. Some new forms of Elateridae in Japan (VI). *Bull. Heian High Sch.* 14 : 1~10, 2 pls. (1, 2, 7 & 8).
- ..... 1976. Some new forms of Elateridae in Japan (IX). *Sci. Rep. Kyoto Pref.* 14 : 7~19, 38 figs. (10 & 11).
- ..... 1979a. Some new forms and records of Elateridae in Japan and its adjacent area. Some new forms of Elateridae in Japan (XIV). *Annl. Rep. priv. Schs. Kyoto Pref.* 17 : 1~21, 100 figs. (4~7).
- ..... 1979b. Some new forms and notes of Elateridae. Some new forms of Elateridae in Japan (XV). *Bull. Heian High Sch.* 23 : 31~43, 69 figs. (34~40).
- ..... 1981. Notes on Elateridae from Japan and its adjacent area (1), with the description of a new species (Coleoptera). *Bull. Heian High Sch.* 25 : 17~25, 23 figs.
- 草薙忠明, 1936. 四国産鞘翅類採集目録, 昆虫界 4 (27) : 297~329 (316).
- Lewis, George, 1879. Diagnoses of Elateridae of Japan. *Ent. monthl. Mag.* 16 : 155~157 (157).
- ..... 1894. On the Elateridae of Japan. *Annl. Mag. nat. Hist.* (6) 13 : 26~48, 182~201, 255~266 & 311~320.
- の場 績・平松広吉, 1974. 和歌山県コメツキムシ科目録 Ⅱ. 南紀生物 16 (1) : 18~22 (21).
- 松田勝毅・中尾進治, 1976. 九重山のコメツキムシ (予報). 北九州の昆虫 23 (1) : 25~32 (31).
- 松浪秀太郎 他 4 氏, 1974. 熊本県のコメツキムシについて. 熊本昆虫同好会報 44 (19-3) : 1~19 (16).
- Miwa Yushiro, 1928a. New and some rare species of Elateridae from the Japanese Empire. *Ins. Mats.* 2 (3) : 133~145, 25 figs. (134).
- ..... 1928b. New and some rare species of Elateridae from the Japanese Empire. *Ins. Mats.* 3 (1) : 36~51, 17 figs. (44).
- ..... 1934. The fauna of Elateridae in the Japanese Empire. *Dept. Agr. Govt res. Inst., Formosa* 65 : 1~289, 229 figs.
- 森田公造, 1965. 白馬岳・朝日岳の昆虫追加記録, *Korasana* 5 (2) : 17.
- Nakane Takehiko, 1963. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions. XXV. *Sci. Rep. Kyoto Pref. Univ.* 3 (5) A ser. : 221~226 (222).

- Ohira Hitoo, 1963. New or little-known Elateridae from Japan, VI (Coleoptera) *Trans. Shikoku ent. Soc.* **8** (1) : 15~18, 1 pl. (18).
- ..... 1964. New or little-known Elateridae from Japan, VII (Coleoptera). *Kontyu* **32** (2) : 233~235, 2 figs.
- ..... 1971. 日本のコメツキムシ (X). *昆虫と自然* **6** (11) : 20~25 (20, 21).
- ..... 1973a. 日本産コメツキムシ科の知見 (XIV). *昆虫* **41** (1) : 102~105 (102).
- ..... 1973b. 日本産コメツキムシ科の知見 (XV). *昆虫* **41** (2) : 238~240 (240).
- ..... 1973c. 日本産コメツキムシ科の知見 (XVIII). *昆虫* **41** (4) : 497~499 (497).
- ..... 1974a. New or little-known Elateridae from Japan, XIX (Coleoptera). *Trans. Shikoku ent. Soc.* **12** (1/2) : 56~59, 4 figs. (58~59).
- ..... 1974b. コメツキムシ雑記 (V). *昆虫と自然* **9** (3) : 20~21 (20).
- 大平仁夫・保田信紀, 1978. エゾクシヒラタコメツキについて. *Coleopterists' News* **41** : 5, 1 fig.
- 大平仁夫・吉田正隆, 1975. 徳島県のコメツキムシについて. *げんせい* **29** : 21~27 (24).
- Silfverberg, Hans, 1977. Nomenclatoric notes on Coleoptera Polyphaga. *Notulae Entom.* **57** : 91~94 (92).
- Stibick, Jeffrey N. L., 1979. A revision of the Hypnoidinae of the world (Col. Elateridae), Part 3. The Hypnoidinae of Eurasia. *Eos, Rev. Espanola de Ent.* **53** : 223~307.
- 田口 明, 1981. 北海道未記録? の昆虫 (2). *昆虫と自然* **16** (8) : 39.
- 高倉康男, 1974. 鷹巣山の甲虫類 (2). *北九州の昆虫* **20** (3) : 59~68 (62).
- 高倉康男・城戸克弥, 1979. 福岡県のコメツキムシ科, *生物福岡* **19** : 15~24, 26 figs. (17, 22).

PLATE I

**Fig. 16. *Hypolithus motschulskyi kongoensis* Kishii, 1969**

Male, Mt. Kongô-zan in Nara Pref., Dec. 5, 1982, N. Nishida leg. (8.5mm)  
(4273).

**Fig. 17. Ditto.**

Female, ditto. (9.5mm) (4274).

**Fig. 18. *Hypolithus motschulskyi tsurugi* Ohira, 1963**

Male, Jyôjusha, Mt. Ishizuchi in Ehime Pref., May 9, 1982, <sup>H. NISHIDA</sup>~~Y. Sawada~~  
leg. (10.5mm) (4212).

**Fig. 19. *Orithales yezoensis yezoensis* Miwa, 1934**

Male, Aizankei in Hokkaidô, July 2, 1982, Y. Sawada leg. (6.5mm) (4271).

**Fig. 20. *Ampedus (Ampedus) yaku ohdai* Kishii, subsp. nov.**

Male, paratype, Mt. Ohdai-ga-hara in Nara Pref., May 28~29, 1977, K.  
Mizuno leg. (9.2mm).

**Fig. 21. *Ampedus (Ampedus) kurama* Kishii, sp. nov.**

Male, paratype, Kurama in Kyoto Pref., May 5, 1965, K. Tsumura leg.  
(9.2mm) (2350).

**Fig. 22. Ditto.**

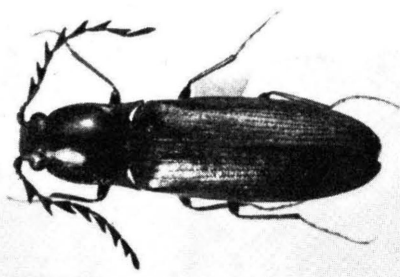
Female, paratype, ditto. (10.8mm) (3832).

**Fig. 23. *Orithales yezoensis yatsuensis* Kishii, 1966**

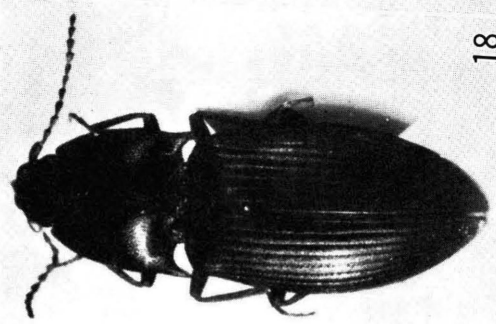
Female, holotype, Mt. Yatsu in Nagano Pref., July 27, 1962, H. Nomura  
leg. (7.2mm).



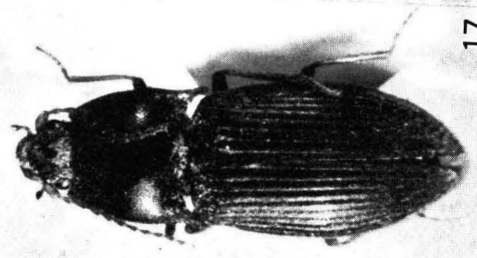
PLATE I



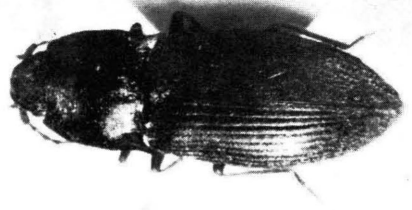
19



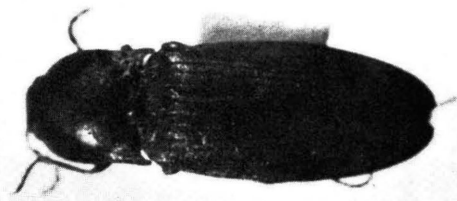
18



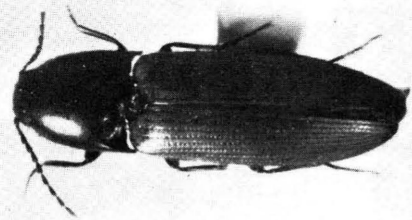
17



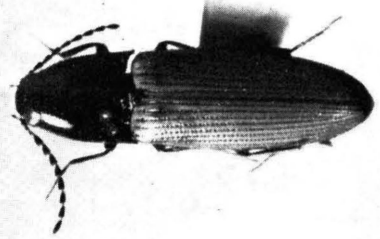
16



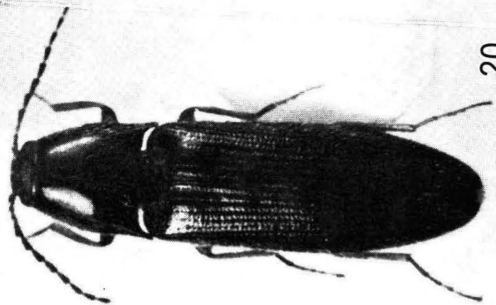
23



22



21



20

PLATE II

**Fig. 24. *Hypolithus motschulskyi taichii* Nakane, 1963**

Male genitalia, Mt. Ohdai-ga-hara in Nara Pref., June 24, 1961, A. Matsuda leg. (2863).

**Fig. 25. Ditto.**

Thorny plates of bursa copulatrix in female, ditto, May 23, 1971, O. Tominaga leg. (4151).

**Fig. 26. *Hypolithus motschulskyi kongoensis* Kishii, 1969**

Male genitalia, Mt. Kongô-zan in Nara Pref., Dec. 5, 1982, N. Nishida leg. (4273).

**Fig. 27. Ditto.**

Thorny plates of bursa copulatrix in female, ditto. (4274).

**Fig. 28. *Hypolithus motschulskyi tsurugi* Ohira, 1963**

Male genitalia, Jyôjusha, Mt. Ishizuchi in Ehime Pref., May 9, 1982, Y. Sawada leg. (4212). *H. N. Sawada*

**Fig. 29. Ditto.**

Thorny plates of bursa copulatrix in female, ditto. (4193).

**Fig. 30. *Orithales yezoensis yezoensis* Miwa, 1934**

Male genitalia, Aizankei in Hokkaidô, July 2, 1982, Y. Sawada leg. (4271).

**Fig. 31. *Harminius nikkoensis* Miwa, 1928**

Male genitalia, Mt. Ohtaki-yama in Nagano Pref., July 24, 1955, T. Hozumi leg. (4272).

**Fig. 32. *Harminius singularis* (Lewis, 1894)**

Sclerotic plate of bursa copulatrix in female, Mt. Rausu in Hokkaidô, July 18, 1982, T. Sukenaga leg. (4270).

PLATE II

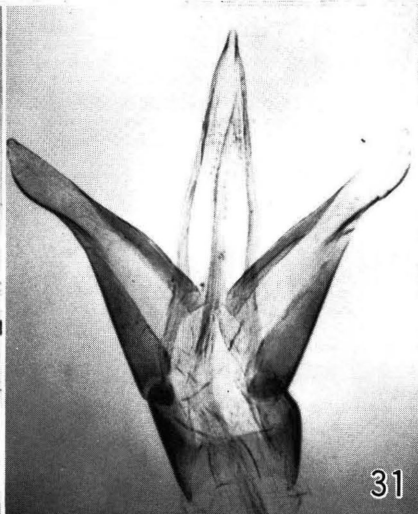
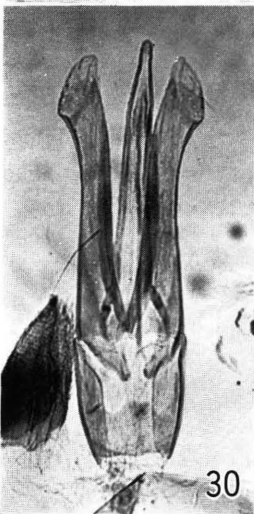
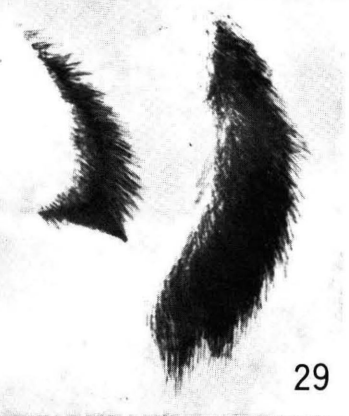
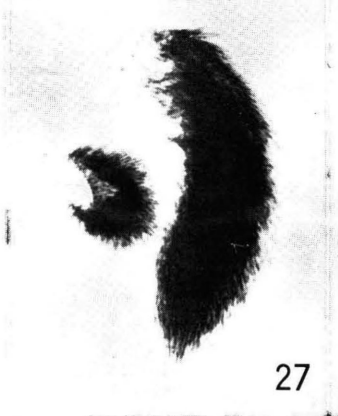
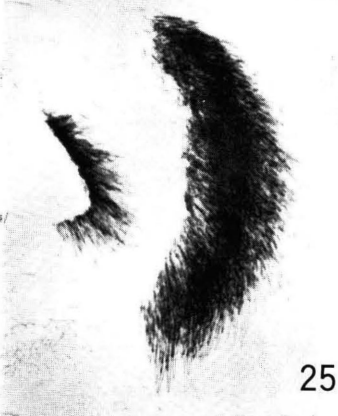
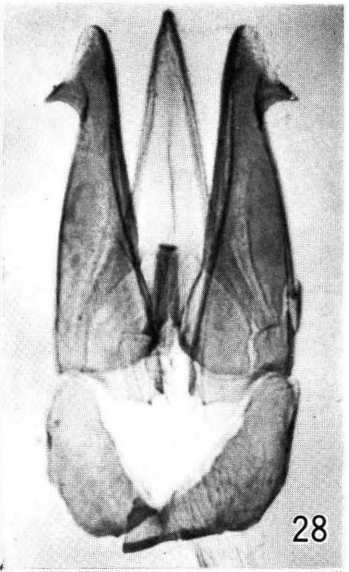
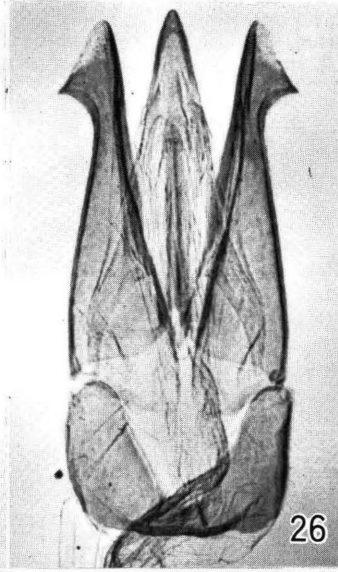
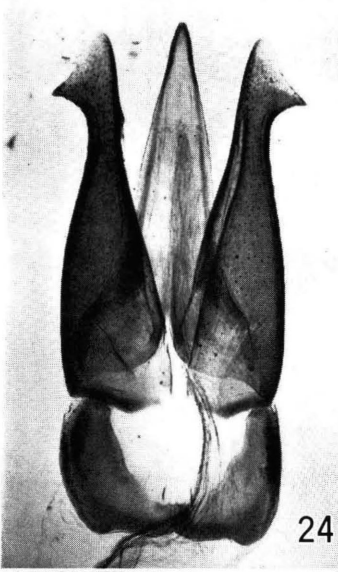
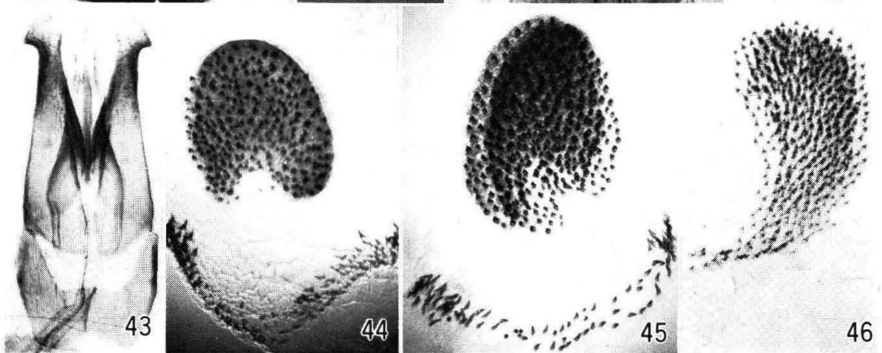
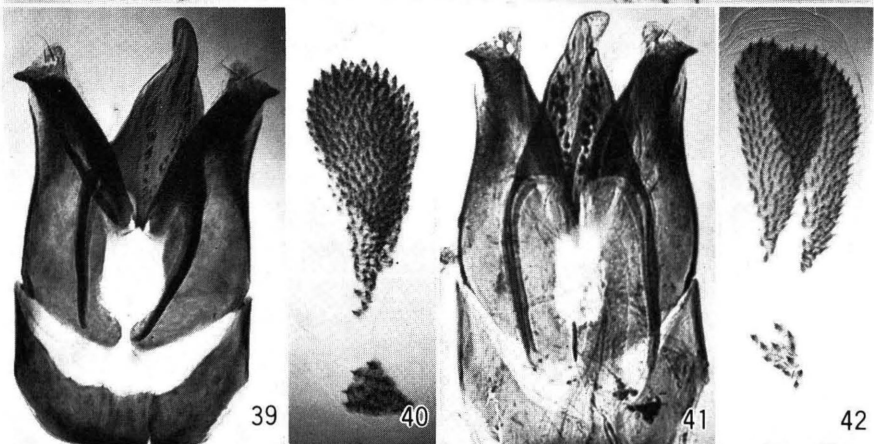
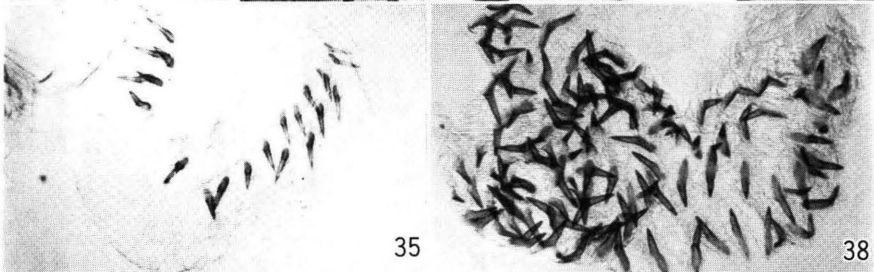
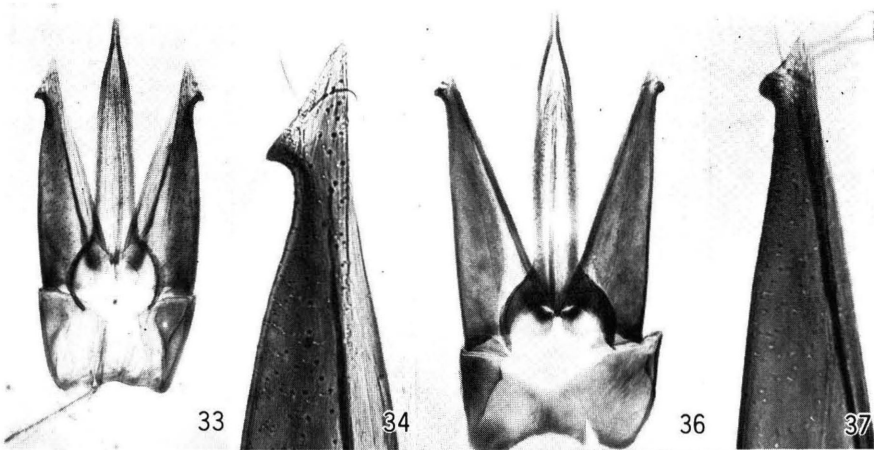


PLATE III

- Fig. 33.** *Ampedus* (*Ampedus*) *kurama* Kishii, sp. nov.  
Male genitalia, paratype, Kurama in Kyoto Pref., May 5, 1965, K. Tsumura leg. (2352).
- Fig. 34.** Ditto.  
Right lateral lobe.
- Fig. 35.** Ditto.  
Prickles of bursa copulatrix, paratype, ditto. (3832).
- Fig. 36.** *Ampedus* (*Ampedus*) *yaku ohdai* Kishii, subsp. nov.  
Male genitalia, holotype, Mt. Ohdai-ga-hara in Nara Pref., July 7~8, 1973, K. Mizuno leg. (2175).
- Fig. 37.** Ditto.  
Right lateral lobe.
- Fig. 38.** Ditto.  
Prickles of bursa copulatrix, paratype, ditto, May 14, 1961, Y. Kimura leg. (3423).
- Fig. 39.** *Ectinus sericeus sericeus* (Candèze, 1878)  
Male genitalia, Mt. Obako-dake in Nara Pref., June 6, 1981, K. Mizuno leg. (4130).
- Fig. 40.** Ditto.  
Thorny plates of bursa copulatrix, ditto. (4129).
- Fig. 41.** Ditto.  
Male genitalia, Mt. Tsurugi in Tokushima Pref., June 19~20, 1981, S. Naomi leg. (4078).
- Fig. 42.** Ditto.  
Thorny plates of bursa copulatrix, Omogo-kei in Ehime Pref., June 15, 1981, S. Naomi leg. (4131).
- Fig. 43.** *Ectinus miyakei* Ohira, 1964.  
Male genitalia, Mt. Kujû in Ôita Pref., July 18, 1981, T. Ogata leg. (4276).
- Fig. 44.** Ditto.  
Thorny plates of bursa copulatrix, Mt. Ohdai-ga-hara in Nara Pref., June 15~16, 1974, K. Mizuno leg. (2769).
- Fig. 45.** Ditto.  
Ditto, Mt. Kujû in Ôita Pref., July 18, 1981, T. Ogata leg. (4275).
- Fig. 46.** *Ectinus sepes* (Lewis, 1879)  
Thorny plates of bursa copulatrix, Mt. Hira in Shiga Pref., May 9, 1964, K. Mizuno leg. (4308).

PLATE III



## PLATE IV

- Fig. 47.** *Ectinus sepes* (Lewis, 1879)  
Male, Mt. Sambe-san in Shimane Pref., June 3, 1968, H. Kadowaki leg. (9.2mm) (2752).
- Fig. 48. Ditto.**  
Female, Mt. Hira in Shiga Pref., May 9, 1964, K. Mizuno leg. (9.2mm) (4308).
- Fig. 49.** *Ectinus exulatus* (Candèze, 1873)  
Male, Tazawa-ko lake-side in Akita Pref., June 8, 1978, K. Baba & N. Katô leg. (7.8mm) (3521).
- Fig. 50. Ditto.**  
Female, Mt. Kuishi in Kôchi Pref., June 2, 1974, T. Ogasawara leg. (8.5 mm).
- Fig. 51.** *Ectinus sericeus sericeus* (Candèze, 1878)  
Male, Kutsugata, Is. Rishiri-tô in Hokkaidô, Aug. 9, 1958, T. Kishii leg. (8.5mm).
- Fig. 52. Ditto.**  
Female, Mt. Rishiri-dake, ditto, Aug. 2~7, 1958, T. Kishii leg. (9.0mm).
- Fig. 53. Ditto, black type.**  
Male, Mt. Obako-dake in Nara Pref., May 23~24, 1981, K. Mizuno leg. (10.5mm) (4126).
- Fig. 54. Ditto.**  
Female, Mt. Ohmine-san in Nara Pref., May 4, 1980, K. Mizuno leg. (10.2 mm) (3798).
- Fig. 55. Ditto.**  
Male, Omogo-kei in Ehime Pref., June 15, 1981, S. Naomi leg. (9.5mm).
- Fig. 56. Ditto.**  
Female, Odami-yama in Ehime Pref., June 13, 1976, M. Yagi leg. (10.5mm) (4247).
- Fig. 57.** *Ectinus sericeus babai* Kishii, 1961  
Male, Mt. Yatate-yama, Is. Tsushima in Nagasaki Pref., May 3, 1968, Y. Kiyoyama leg. (8.0mm).
- Fig. 58. Ditto.**  
Female, paratype, Mt. Ariake-yama, ditto, May 23, 1957, K. Baba leg. (8.5 mm) (2142).

PLATE IV

